

# 乳児から就学前幼児までの発達段階を見通した 保育の充実—乳児専門保育園から幼稚園への 円滑な接続を中心に—

Improvement of childcare that looked through a development stage from a baby to an infant. Mainly on the smooth shifts from a nursery school specialized in baby to a kindergarten.

椋山女学園大学教育学部教授  
附属幼稚園園長

石橋 尚子

Naoko Ishibashi

椋山女学園大学附属保育園園長

小林 豊子

Toyoko Kobayashi

椋山女学園大学附属幼稚園教頭

三田 郁穂

Ikuho Mita

椋山女学園大学附属保育園主任

松本由美子

Yumiko Matsumoto

## 1. 問題の所在と目的

2015年4月から「子ども・子育て支援新制度」が本格的に実施された。保育界の転換期・変革期とも言える制度改革であり、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の告示に象徴されるように、国策としての幼保一体化の方向が明示された。それと全く時を同じくして、椋山女学園大学附属保育園（乳児専門保育園）が誕生した。既存の附属幼稚園とは別組織の名古屋市認可園ではあるが、国の動向と無関係では在りえず、乳児から就学前幼児までの発達段階を見通した保育の充実は、今後附属両園が取り組むべき最重要課題である。

「待機児童0政策」の下、ここ数年名古屋市

内にも数多くの乳児専門保育園が設置されている。企業参入の影響もあって、それらの園の保育の質の確保が問題視されているが、最大の関心は、3歳児以降の就園先の確保と保育内容の連続性の保障である。しかしながら、就園先の確保はともかく、保育内容の連続性の保障については具体的な提案は行われていない。本研究はこのような保育界の要請に応えるものである。幼保連携型認定こども園とは違った形での幼保の連携、接続の在り方を提案したいと考える。

その取り組みの端緒として、附属保育園から附属幼稚園への円滑な接続について検討する。乳児専門保育園で育った2歳児を、保育園・幼稚園の3歳児クラスに受け入れる場合

に、どのような保育の連続性の確保と配慮・工夫等が行われているのかを、送り手側、受け入れ側の両面から調査し、その問題点を明らかにする。その結果を踏まえて、現行の附属幼稚園教育課程並びに附属保育園保育課程の一本化と、円滑な接続方法について具体化したい。

## 2. 研究の流れ

本年度の研究の流れは以下の通りである。本報告書を作成している1月時点では、ステップ4が進行中である。ステップ5までの結果を踏まえ、今後さらなる研究の進展をはかりたい。

**ステップ1** 2015年「子ども・子育て支援新制度」開始時の名古屋市内教育・保育施設の開設状況把握。附属幼稚園には、附属保育園開設前に幼保連携型認定こども園化を目指した経緯もあることから、名古屋市内の認定こども園の開設状況に注目した。

**ステップ2** 同一法人内の乳児専門保育園から保育園・幼稚園への接続並びに保育の連続性と課題についての実態調査。先進的取り組みを行っている以下2園の見学並びにインタビュー調査・資料収集を行った。

①大阪キリスト教短期大学付属「聖愛幼稚園」「せいあい保育園」：大阪市阿倍野区。大学の附属幼稚園・保育園という形態が一致していることにより抽出。

②認定こども園「ゆうゆうのもり幼保園」：横浜市都筑区。新園舎設計にあたり訪問・協力を得た経緯があること、幼保連携における先進的取り組み園であることにより抽出。

**ステップ3** 情報の共有と園内幼保連携協議チームの立ち上げ。ステップ2で入手した

情報を園内で報告・共有するとともに、乳児専門保育園から幼稚園への円滑な接続方法について具体化するための園内幼保連携協議チームを立ち上げた。メンバーは、本プロジェクトメンバーに、附属幼稚園3歳児主任教諭、附属幼稚園預かり保育担当教諭、附属保育園2歳児担当保育士2名、の4名を加えた計8名である。

**ステップ4** 園内幼保連携協議チームによる幼保連携会議の実施と連携具体案の提案と試行。現在附属保育園2歳児クラス在園12名の本年度3月卒園、次年度4月附属幼稚園3歳児クラス入園に向けて、円滑な移行を可能とするための協議を行い、具体案を提案し、他の教諭・保育士の協力のもと試行する。

**ステップ5** 園内幼保連携協議チームによる連携具体案試行の評価と修正。

## 3. 研究成果

(1)「子ども・子育て支援新制度」開始時の名古屋市内教育・保育施設の開設状況について

「名古屋市の保育（平成27年度）」によれば、「認定こども園とは、就学前の子どもに幼児教育・保育を提供し、地域における子育て支援を行う機能を備える施設」であり、その種類には、「幼保連携型認定こども園：学校及び児童福祉施設として、双方の法的位置づけを持つ単一の施設」「幼稚園型認定こども園：すでに認可されている幼稚園が、教育課程に基づく教育を行うほか、保育の必要な子どもにも教育・保育を合わせて行う施設」「保育所型認定こども園：すでに認可されている保育所が、保育を必要としている子どもに保育を行うほか、保育の必要な子ども以外の満3歳児以上の子どもの教育・保育を行う施設」「地方裁量

型認定こども園：保育を必要とする子どもに保育を行うほか、保育の必要な子ども以外の満3歳児以上の子どもに教育・保育を行う保育所機能施設」の4種がある。

2015年7月時点における名古屋市内の認定こども園数は30園（全て私立園）で、名古屋市内全教育・保育施設562園（国公立幼稚園：24園、私立幼稚園：152園、公立保育園115園、私立保育園：241園、認定こども園：30園）の5.3%である。名古屋市16区の内、東区、北区、中区の3区にはこの時点で認定こども園は開設されておらず、最も開設率が高い南区においてもその率は11.8%（4園/34園）に留まっている。相山女学園大学附属幼稚園・保育園の所在地である千種区においては、認定こども園は2園（社会福祉法人ちくさ学園：千草保育園、社会福祉法人立任天会：富士見の森こども園）で、千種区全教育・保育施設45園の4.4%である。

このように、現時点での名古屋市内の認定こども園数は極めて少なく、今後の動向が注目されるところである。保育の連続性の確保と配慮・工夫等の観点からも、継続して情報収集していきたい。

## (2) 同一法人内の乳児専門保育園から保育園・幼稚園への接続並びに保育の連続性と課題について

訪問調査を行った2つの園から得られた情報や成果については、訪問後に行った報告会で使用した資料を掲載することで、報告としたい。

### ①大阪キリスト教短期大学付属「聖愛幼稚園」「せいあい保育園」を訪問して

【訪問日時】平成27年7月15日（水）

【訪問者】小林豊子、三田郁穂

### 【施設設備について】

- ・保育園は旧制度認定こども園認可に伴い新築。
- ・1F 玄関ホール、厨房は幼保共用。
- ・職員室は幼稚園教員・園長と保育園園長・主任が使用。保育園職員は2F 休憩室を使用。
- ・2F は保育園専用スペース：0歳児室8名、1歳児室16名、2歳児室22名の計46名。
- ・2F 中央にやや広いスペースがあり、1・2歳児部屋の壁を移動させるとまとまったスペースがとれる。1・2歳児部屋はつながった空間で家具にて間仕切り。
- ・幼稚園は別棟。各学年2クラス、すべて複数担任。
- ・預かり保育は共用ホールにて行う。3歳午睡は保育園内1Fの幼稚園2歳児室で。

### 【清水千鶴園長への聞き取り結果】

- ・園の概要：幼稚園は間もなく創立50年。5年前に保育園設立。0～2歳の保育園と3～5歳の幼稚園の認定こども園となる。新制度に伴い、認定こども園の認可を返上し、保育園と幼稚園の別組織とする。
- ・保育園から幼稚園への入園に関して：2歳児のうち約半数が幼稚園を希望。希望者は幼稚園に優先的に入園できる。入園金が必要。

### 【幼稚園への滑らかな接続のために保育園が行っていること】

- ・生活時間の配慮：2歳児後半より幼稚園での生活時間にスムーズに移行できるようにするため、給食時間を30分ほど遅らせ、午睡の開始時間を遅くする。

### 【幼稚園への滑らかな接続のために幼稚園が

【行っていること】

- ・入園前からの預かり保育の対応：降園前にお迎え児と預かり児に分け、預かり保育児は先に預かり保育に向かい、11時30分に給食を食べ、午睡する。5月からは14時までの保育になるが、預かり保育の3歳児は全員14時からすぐに1時間の午睡、その後おやつをとる（3月まで）。

【幼稚園への接続のための引き継ぎ書類や会議等】

- ・書面での申し送りはない。保護者の情報やアレルギーは口頭で伝達。

【幼稚園と保育園の交流保育】

- ・夕刻18時30分～19時は合同保育。一緒におやつ。保育士2名と幼稚園教諭2名の4名体制。以前は17時からであったが、預かり保育の人数が増えて、危険であるとともに小さい子が休めないため。
- ・園庭で一緒に遊ぶ。
- ・年長児が少人数で昼寝時に手伝いに行く。

【幼稚園への入園に向けて保護者への説明】

- ・保護者が幼稚園か他の保育園かを選択。
- ・2月の説明会で年間の保護者参加行事を知らせている。

【幼稚園と保育園の保護者間の交流】

- ・特にない。
- ・保育園保護者会が幼稚園PTA行事に参加するかどうかは、その年の役員で決めている。

る。

【職員間の連携について】

- ・月に1回不定期で幼稚園と保育園の職員が連絡会議を行う。保育内容、ローテーション、預かり保育、土曜勤務など雑談も。出入り・参加は自由。
- ・人事異動は給料体系が違うので今はできない。

②認定こども園「ゆうゆうのもり幼保園」を訪問して

【訪問日時】平成27年9月24日（木）

【訪問者】石橋（横尾）尚子、松本由美子

【園の概要】渡辺英則園長によれば、ゆうゆうのもり幼保園は、横浜市のよこはま子育て支援計画中期政策プラン「はまっ子幼保園」構想に基づき平成17年に開園した施設。保育園、幼稚園の枠を超えて、子どもが子どもらしく育つことを目的に保育を行っている。平成19年4月からは、新たな法律に基づき、幼保一体化政策として「認定こども園」となった。常に子どもが育ちあうという視点で、保護者、地域社会に発信できるような施設でありたいと願っているとのことであった。

【子どもの人数並びに職員（全員正規採用）の配置】表1に示す通りである。

【職員の勤務体制】

- ・乳児担当と幼児担当では別の勤務形態をとっている。

表1

	2号・3号	1号	職員数	担任比率	職員その他等
0歳児	6名		2名	3:1	主任1名 フリー1名
1歳児	10名		3名	4:1	
2歳児	11名		2名	5:1	
3歳児	11名	50名	4名	15:1	光の時間：フリー3名 風の時間：フリー4名 （遅番勤務+1）
4歳児	11名	50名	2名	30:1	
5歳児	11名	50名	2名	30:1	
合計	60名	150名	15名		9名
	210名				

- ・乳児：いわゆる時差勤務で、7:30～19:30の時間帯を交代勤務。
- ・幼児：おはよう保育＝7:30～8:00パート2～3名（子ども数は20名程度）、光の時間（おひさま保育）＝8:00～17:00光担任（クラス担当制：8名）、風の時間（そよかぜ保育）11:00～19:30風担任（学年担当制：3名）の3つの時間帯で構成。それぞれの時間帯を1年間は専任。
- ・乳児・幼児合同：ぬくもりの時間の名称で、18:30～19:30の時間帯を乳児担当1名と風担任3名（主にそうじ・戸締り・書類作成）の4名で担当。

#### 【情報の共有方法】

- ・朝礼：乳児担任1名＋光担任8名で打ち合わせを行う（業務日誌のようなノート有）。
- ・昼礼：光担任と風担任の引き継ぎ（14:00頃）。
- ・他に「乳児ノート」もあり、職員全員が見て園全体のことを把握するよう努めている。
- ・食事の時間を有効に活用する。乳児主任＋風主任＋光主任で食べながらミーティングをし、情報交換の場としている。

#### 【接続にあたって最も大切なこと】

- ※2歳児の3学期を大切に丁寧に！
- ・幼保が連携していくことの重要性を、繰り返し強調された。

#### 【梶山で実際にどんな困難が予想されるか】

- ・子どもは、2歳児1クラス12名が4クラスに分かれることにより、仲間が分断される不安を抱く。
- ・子どもは、環境・生活リズムの変化により、情緒が不安定になる。
- ・保護者は、今までのように手厚くケアしてもらえないことに不満を抱きがちである。

- ・3歳児クラス担任は、ほとんど会うことのない保護者との意思の疎通が難しい。

- ・保護者間の立場上の摩擦が生じる。
- ・午後の生活を豊かなものにできるか。

#### 【幼稚園への滑らかな接続のために保育園にできること】 渡辺英則園長の提案

- ・2歳児担任と共に、2Fで生活してみる（幼稚園の先生、子どもたちと触れあう。楽しいことがあると知らせていく）。
- ・生活リズムを少しずつ幼稚園3歳児クラス用にスライドさせていく（食事をしたあと間を空けて午睡へ）。

#### 【幼稚園への滑らかな接続のために幼稚園にできること】 渡辺英則園長の提案

- ・保護者との意思の疎通方法を検討する。
- ・午睡を含めた生活のあり方（養護も含めて）を考える。
- ・預かり保育担当と担任の引き継ぎを丁寧に行う。
- ・預かり保育の充実（内容、カリキュラム）。
- ・幼稚園春休み期間に、3歳児クラス担任予定者が2歳児クラスに入って保育をする機会を設ける。

#### 【幼稚園への滑らかな接続のために保護者にアピールすべきこと】 渡辺英則園長の提案

- ・4月の保護者会は土曜日に開催するなど、役員や保護者会行事などは全体場で決める。
- ・保育園と幼稚園の違いについて丁寧に説明する。
- ・園が両者を分けた考え方をしない。
- ・預かり保育事業の説明を詳しくする。

#### 【その他の留意点】

- ・おやつ時間の検討：14:00から午睡に入る  
ので、起きた子どもから食べさせるか、



15:00～16:00の時間設定で食べさせるか。

- ・ 幼保の先生がお互いの子どもたちのことに興味を持つこと。
- ・ 4月の1ヶ月間は3歳から入園してくる子の預かり保育は断り、保育園からの12人のケアに集中する。

### (3) 園内幼保連携協議チームによる幼保連携会議の実施と連携具体案の提案

前述の8名のメンバーにより園内幼保連携協議チームを立ち上げ、現時点で2回の幼保連携会議を実施し、連携具体案を検討している。今後全職員への提案後、実施を目指す。2回の会議録をもって、報告としたい。

#### ① 幼保連携会議（第1回）

- ・ 開催日時：平成27年12月10日（木）15:30～16:30
- ・ 石橋園長より園内幼保連携協議チーム立ち上げにあたって：保育園から12名の園児が来年度より入園することが確定している。その子どもたちの不安を少しでも解消できるように、幼稚園と保育園でお互いを充分に理解し、連携して保育を進めていきたい。そのための具体策についてこの場で検討をお願いしたい。
- ・ 石橋園長並びに松本保育主任より：認定こども園「ゆうゆうのもり幼保園」見学報告。
- ・ 見学報告書についての質問や、現在疑問に思っていることなどの話し合い。

Q1：認定1号、2号について

A1：1号は5時間保育、いわゆる幼稚園時間の認定。2号・3号は延長保育の認定。

Q2：今までも保育園児は沢山来ていたが、以前の習慣で困ったことは一度もなかったか。

A2：0～5歳の保育園でも、2歳から3歳への移行は大切にしている。検討の必要あり。

Q3：預かりの時間で、昼寝をどう取り入れていくのか。時間よりも、昼寝の不要な子は起きたままでいいのか。

A3：昼寝がないと必ず夕刻寝てしまうであろう。保育時間が長いので疲れてしまう。4月などは、今までの習慣でどうしても寝てしまう。検討の必要あり。

Q4：例えば保育園ではトイレのスリッパなど使ったことがないが。

A4：園児がいない時に2階に散歩に来て、使ってみては。

今回はここまでで終了。具体的に何をしていくかは、次回以降へ持ち越し。

#### ② 幼保連携会議（第2回）

- ・ 開催日時：平成27年12月15日（火）
- ・ 小林園長より：幼稚園児、保育園児の互いの子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちが心地よく生活できるように考えていく必要がある。
- ・ 三田教頭より：大阪キリスト教短期大学付属「聖愛幼稚園」「せいあい保育園」見学報告。

#### 【幼保の連携の具体案について】

- ・ 今回は、2歳児全員が相山幼稚園へ入園するが、来年度以降、転園する子どももいるかもしれないことを考えると、幼稚園への入園に向けてということに重きを置くのはいかがでしょうか？ 転園児への対応はどうしていくのか？
- ・ 子どもが幼稚園入園、他園への入園に向けて、大きくなったことへの実感が得られるようにしていくことは大切である。ただ

し、幼保の接続のねらいは、毎年考えていかなければならないだろう（3歳児以降の就園状況を考慮する）。

【幼保の連携の具体案について：保育園で取り組めること】

- ・3歳児の戸外活動中や冬期・春期休業期間に、3歳児保育室を使わせてもらう。
- ・戸外での集団遊び等で子ども同士関わる機会を持つ。
- ・預かり保育の活動に合流し、一緒に関わる機会を持つ（2歳児は、少人数のグループに分かれて、保育士1名とともに活動に参加する）。
- ・幼稚園での活動に加えてもらう（幼稚園の子どもたちに負担がないところで可能なら）。
- ・トイレでスリッパを履くことに慣れる（ぶどう組前のトイレで行う）。
- ・上靴の使用をしていく。

【幼保の連携の具体案について：幼稚園で取り組めること】

- ・冬くまクラス（冬期休業期間中の預かり保育）の活動に参加することは、可能である。
- ・3学期は発表会があり、それに向けての活動も多くなってくるので、クラス（保育室内）での活動に保育園児が入っていくのは難しい。兼用園庭や、砂場で遊んでいるときに交流していくのはどうか。
- ・休み期間中に、幼稚園の保育室を使うことは問題ない。
- ・幼稚園の用品（カバン等）を使って、自分で出し入れすることに慣れておくのはどうか。無理のない範囲で。

【これらを踏まえて】

- ・4月以降預かり保育で使用するため、ハン

カチを携帯し使用することに慣れさせる。

- ・ホールで遊ぶ時に上靴を履かせ、着脱に慣れさせる。
- ・戸外遊びの時に交流をしていく。交流の可否については、両者の担任で確認し合う。
- ・冬くまクラス（冬期休業期間中の預かり保育）の活動に参加させ、入園式前（4/1開始）の預かり保育に慣れさせておく。参加にあたっては、担当保育士と十分に連絡・相談する。
- ・幼稚園用品を使って、幼稚園ごっこを楽しむことで、幼稚園用品の扱いに慣れさせる。また幼稚園への憧れの気持ちや幼稚園入園への期待感を持たせる。（3/5に用品が届く。今回は、全員入園であったので可能であるが、来年度以降は保育園児への転園状況を踏まえて検討する。）
- ・箸の使用については、幼稚園では年中クラスの中旬くらいから大体の子が揃って使用できるようになるので、まだ焦らなくてよい。まず今の2歳児の状況を見てから、今後の対応を検討する。

4. まとめと今後の課題

2015年「子ども・子育て支援新制度」開始時の名古屋市内教育・保育施設の開設状況把握に始まり、幼保連携に関する先進的取り組みを行っている2園を訪問し、その見学成果を共有化する形で「幼保連携協議チーム」を立ち上げた。幼保連携協議チームによる幼保連携会議は今まさに稼働中であり、そこから提案される具体策が徐々に実行されつつある現状である。その実行は年度をまたぐものもあり、現時点（2016年1月）で評価することはできない。その評価並びに附属幼稚園と附

属保育園との連携の方向性については、今後の報告としたい。

#### 引用・参考文献

- ・名古屋市の保育－平成 27 年度－ 2015 名古屋市子ども青少年局保育部保育企画室・保育運営課編 A4 版全 392 頁.
- ・名古屋市幼児教育研究協議会名簿 2015 名古屋市幼児教育研究協議会組織部編 A4 版全 56 頁.

謝辞:今回、大阪キリスト教短期大学付属「聖愛幼稚園」「せいあい保育園」の清水千鶴園長先生はじめ諸先生、認定こども園「ゆうゆうのもり幼保園」の渡辺英則園長先生はじめ諸先生には、ご多忙の中を訪問調査にご協力いただきとともに、貴重な情報をご提供いただきました。ここに、謝意を表します。